

# 新型コロナウイルスの感染者が発生した場合のマニュアル

**感染疑いの入居者様(発熱・倦怠感・息苦しい、味覚障害等)が確認された場合は、直ちにコロナウイルス対応に！**

## (現場で行う事)

- ・疑いのある入居者様は、一旦自室へ隔離し、こまめに観察する。
  - ・直前まで本人がいた場所を中心に、椅子・テーブル・手すり等の全て、まんべんなく次亜水で消毒を行う。
  - ・コロナ担当職員は、ノロウイルスキッドを準備し、その他必要物品(次亜水)を揃える。
  - ・コロナ対応セットを居室前へ設置する。
  - ・自室トイレ内には、トイレ掃除用具を設置する。
  - ・自室ドアの居室内・外それぞれの下の部分に、次亜水をしみこませたマットをすき間を埋めるように設置する。
  - ・加湿器を居室前に移動させる。(必ず次亜水を作り入れる)
  - ・患者が出たユニットの入居者全員を各居室にて対応すると共に、各ユニット毎(1. 2. 3)に連絡を取り合い、汚染区域を行き来しないよう考慮する。
  - ・日勤帯・夜勤帯共に、役割分担を速やかに行う。
  - ・全ての換気扇・空調を止める。(居室・居室内トイレ・浴室・職員トイレ・各ユニットホール)
  - ・GH2. 3は、最初に患者を出した方の洗濯室を専用に、汚染物を処理するようにする。
  - ・患者が出たユニットの入居者全員の食器は使い捨てにする。
  - ・ドビーは使用禁止とし、各自お尻拭きを購入するか、使い捨てのお尻拭きを用意する。
- \* 管理者不在時は、電話もしくはメール(直ぐには電話対応できないときもある為)にて報告をする。

## (感染疑い後の対応)

- ・看護師(GH又は老健)から主治医へ連絡し往診 ⇒ 医師が保健所へ連絡
- ・PCR検査実施 ⇒ 一旦ホームへ帰所
- ・他の入居者の健康状態の把握、施設内消毒
  - \*「現場で行う事」の対応を参照
- ・翌日、「陽性」の連絡有り
- ・保健所の指示に従い入院(指定された病院へ救急搬送)又は待機
- ・待機の場合 ⇒ スタッフは自宅待機  
利用者は隔離対応  
その他、健常入居者は別ユニットに移動させない
- ・その後、PCR検査で「陽性」の入居者やスタッフは保健所の指示に従う。  
また、「陰性」の入居者は一応健常入居者と一緒に過ごす約 2 週間は、健常入居者と濃厚な接触を避け、健康観察を続ける。  
スタッフで「陰性」の場合は、2 週間自宅待機を行い、健康上問題なければ仕事に復帰する。
- ・感染者、感染疑い者が入院した後は、施設内消毒と空気の入換え(保健所からの指示がある場合は指示に疑う)
- ・入居者は認知症で 1 ヶ所に留まっていることが難しい為、陽性のまま居室外やホールに出てくる事があり、24 時間体制のケアが必要である。その為健常入居者を別ユニット等に移動させる。
- ・感染者が軽症でも特に高齢の場合、重症化するリスクがある為、出来るだけ早く入院させてもらえるように保健所に要望する。
- ・スタッフの健康も最大限守る立場で、「疑い」がある入居者に対しても、防護服対応で行う。

\*この場合の「健常入居者」とは、感染していない、若しくは感染の疑いのない入居者のことをさす

### ☆感染入居者又は感染疑い入居者の待機が複数発生

- ・対応しては、上記同様で行うが、人数が複数になる為、当該ユニットを感染者用に決め、隔離、防護服対応。  
別ユニットは健常入居者用に決め、スタッフや入居者の往来はしない。
- ・スタッフが複数自宅待機又は入院となった場合、健常者のケアをする為に調理は老健厨房に依頼する。  
又、同一法人内の他事業所に応援を求める。
- ・感染者や感染の疑い者がいなくなった時点で、保健所の指導により館内消毒を行い、健常入居者を元のユニットに戻す。

# コロナウイルス対応マニュアル

## 排泄編

\* 調理担当者は、排泄介助を行わない事とする。

### ★感染者

- ・担当職員はビニールの使い捨てエプロン(若しくはゴミ袋(70L) + 腕にポリ袋 17号)を着用し、マスク・手袋は2枚重ねで介助することを義務付ける。
- ・排泄介助後は、汚物の入ったゴミ袋は排泄介助毎に次亜水を噴霧した後、封をする。  
ゴム手袋を1枚脱ぎ、次亜水容器を消毒し、封をした箇所にも次亜水を吹き付けておく。
- ・万が一便器内に汚染物が残っている場合は、必ず掃除し排水した後、次亜水を入れておく。
- ・便器・手すり等を消毒する。
- ・手袋を脱ぎ手洗いし、洗面所内や蛇口も清潔にした後、次亜水を噴霧し、内外両方のドアノブにも次亜水を噴霧した後、退室する。

### ★非感染者

- \* コロナ担当者は、介助しないこととする。
- ・予防衣(長もしくは袖無し)を着用した上にビニールの使い捨てエプロンを着用、マスク・ゴム手袋を1枚ずつ装着する。
- ・汚物処理については従来通りで、必ず次亜水を噴霧すること。
- ・万が一便器内に汚染物が残っている場合は、必ず掃除し排水した後、次亜水を入れておく。
- ・便器・手すり等を消毒する。
- ・予防衣を裏返しにするようにして脱ぎ、居室内に掛けておく。次亜水をまんべんなく噴霧する。
- ・手袋を脱ぎ手洗いし、洗面所内や蛇口も清潔にした後、次亜水を噴霧し、内外両方のドアノブにも次亜水を噴霧した後、退室する。

## 食事編

- \* コロナ担当者は、台所に入らないこととする。
- \* 食器棚や台所内を整理整頓し、食器やお盆等を出しっぱなしにしないこと。
- \* 手洗いを十分に行い、アルコール消毒を行うこと。
- \* 台所・シンク・ガス台等は常に消毒し、又清潔を保つこと。
- \* テーブル拭き・茶わん拭きを職員が行うこと。

### ★感染者

- ・使い捨ての食器を使用する。  
使用後は、居室内でビニール袋に入れた後次亜水を噴霧し処分する。
- ・お盆には、ビニール袋をかぶせ使用する。  
摂取後は、次亜水を噴霧してから廊下に出しておく。

### ★非感染者

- ・通常通りの食器を利用するが、洗った後は煮沸消毒をすること。
- ・お盆は全体が浸るまで次亜水に10分以上つけ置きしてから、拭きカウンター内に片付けること。

## 洗濯編

\* コロナウイルス感染入居者又は疑いのある入居者が出たユニットの洗濯室を、感染者対応とする。

コロナ担当スタッフのみ出入りする

\* 長予防衣を着用しゴム手袋とマスク 2 枚を装着する

\* 感染者の衣類等と、疑いのある感染者の衣類等とは別に洗濯すること。(最初に、疑いのある者の物を洗濯してから感染者の物を洗濯する)

\* 使用後は、洗濯室・洗濯機・蛇口・汚物処理場・床等、次亜水で消毒する

### ★体液が付着した衣類等を洗う際の注意点

1. 汚物処理場で、汚物を丁寧に洗い流す。(その際、洗い中の水しぶきを出来るだけ抑える)
2. 再度、水で丁寧に洗った後洗濯機に入れ、洗剤と、バケツに漂白ハイターのキャップ 1 杯分を入れた水を入れる。
3. 「標準」又は「念入り」で洗濯する。
4. 洗濯後、乾燥機で「除菌」に設定し、乾燥させる。

### ★非感染者の洗濯について

・通常通りの洗濯で大丈夫ですが、念のため漂白ハイター入り水を入れ、洗濯する。

## 掃除編

- \* 感染居室は掃除機を使用せず、「コロコロ」(延着テープの掃除用具)を使用する。  
次亜水で、床・カーテン・手すり・トイレ・蛇口・ドアノブ・ベッドを毎回出入りした際に噴霧する。
- \* 他居室については、通常通り行うが、複数の感染者が発症した時点で、当該ユニットはコロナ担当者が掃除を行う。
- \* 万が一、ホール・廊下が汚染されていた場合は、掃除機を掛けず、廊下・ホールの絨毯に、次亜水を噴霧し消毒する。
- \* 掃除機を掛ける際は、送風口部分に次亜水を染みこませた布を軽くあてがい、掃除機から出て来た汚染された空気が空中に舞う事の配慮し、終了後、掃除機パック内のゴミを使用毎に袋に密閉し、次亜水で消毒後速やかに処分する。  
(掃除機には、直接次亜水を噴霧しないでください。故障の原因になります)

## 感染者への対応

- ・ユニット内に感染者が複数出た時点で、入浴を中止する。更衣を適度に行い清潔保持に努める
- ・感染者が出た時点で、食堂に使用している座布団・クッションを回収し消毒する。(感染者がゼロになるまで使用しない)
- ・隔離中は、1時間に1度程度、窓を開け換気をし、空気を入れ換える。

## 感染者ゼロになった後の対応

- ・隔離者がゼロになった時点で、廊下・全居室内床・手すり・ソファー・椅子・食堂テーブル(裏も)・カーテン・ブラインド等全てに次亜水を噴霧し、掃除機を掛ける
- ・感染者が「ゼロ」になってから1週間は、食材調達や物品調達は他ユニットへ依頼する
- 感染者が「ゼロ」になってから約2週間は、感染ユニットの全ての入居者様は、他ユニット及び老健への出入りを避ける
- 感染者が「ゼロ」になってから約2週間は、ドビーの使用を禁ずる
- 感染者が「ゼロ」になってから約2週間は、入浴順番を「非感染者→感染者」の順で介助する